



田峯城は、愛知県北設楽郡設楽町の寒狭川の溪流を見下ろす標高三八七メートルの独立丘陵にある山城です。本丸から見下ろした寒狭川の蛇行と城をいたたく山並みがまさに大蛇のようであることから、田峯城は別称「蛇頭城」「竜の城」とも呼ばれています。



独立丘陵に鎮座

愛知森林管理事務所



菅沼一族の甲冑

◆歴史

足利幕府の権威が失墜し、実力だけがものをいう下克上時代に、奥三河では三氏族（菅沼氏、奥平氏、菅沼氏）が力を持っていました。

田峯城は、このうち田峯を治めていた菅沼定信によって一四七〇年に築かれました。その後、五代目城主菅沼定忠が武田軍に従って長篠合戦に出陣しましたが敗退、武田軍と共に逃れ、現在の飯田市において徳川軍に捕らえられ、田峯城は従兄弟菅沼定利が徳川軍の命により城主となりました。一五八三年、菅沼定利が飯田郡代となったのを機に田峯城は廃城となりました。

◆内乱

長篠合戦において武田軍が大敗した際、留守居の将、叔父の定直と家老今泉道善の謀反にあい、武田勝頼と共に引き上げてきた菅沼定忠は、田峯城に入城出来ず信州に敗走することを余儀なくされました。

復讐を誓った菅沼定忠は、一五七六年七月十四日、田峯城に夜襲をかけて謀反の一族老若男女九十六人を惨殺し、ついに主謀格の今泉道善を刑に処しました。謀反を受けた菅沼定忠の怒りは絶大で、今泉道善は「生きながら」の鋸引きの刑という最期を奥三河の地で迎えることとなりました。



写真左は急峻な崖

◆現在の田峯城

田峯城は、新東名の新城ICが開設されたこともあり、年間二千四百名の方々が訪れる観光地となっています。

設楽町観光協会によると、入城者数は五月と七月がピークになります。

大河ドラマ等に紹介されていませんが、これを機に隠れた戦国時代の一幕をご覧ください。ことをお勧めします。

【アクセス】

①公共交通機関 JR飯田線の本長篠駅から豊鉄バス田口行に乗り田峯下車、徒歩十五分

②自家用車 国道二五七号線を田峯で分岐し町道を約五分上がって到着



田峯城本丸